

## 事例26 ほ場整備区域を中心とした広域（3自治会）の協定づくり

田子町 来満

### 協定内容

面積	田	畑	草地	協定参加者
47ha	47ha	—	—	67人
交付金総額 372万円	個人配分（50%）		186万円	
	共同活動（50%） 186万円		役員報酬等 32万円	農道・水路管理 18万円
			多面的機能増進活動（景観作物） 20万円	
			その他（共同取組活動・共同機械購入等） 116万円	

### 広範囲の協定区域

熊原川沿いのは場整備区域を協定の対象としており、その延長は約2kmで、3自治会にわたっています。このため、協定参加者も3自治会の農業者で構成され、役員は各自治会から代表者を出して調整を図っています。

### 地域内の景観形成

協定農地の中心を大きな林道が通っており、農業者のほか多くの一般住民がこの林道を利用していることから、この沿線を中心に花木を植栽して、景観の向上を図っています。



景観形成された道路



道路沿いの植樹作業

### パソコン研修会開催

ほ場整備が完了してから5年以上を経過して、法面や畦畔が崩れかかっていることから、効率的に整備できるよう畦塗り機を購入し、オペレーターを配置して取り組んでいます。

また、担い手育成の一環としてパソコンを購入し、協定参加者が活用できるようにしているほか、中高年齢層も操作に慣れることができるよう、研修会等を開催しながら取り組んでいます。

### 協定代表者の声



増田 博さん(62歳)

協定区域があまりに広いため、うまく共同活動ができるのか不安でしたが、各地区から役員を選出して打合せを重ね、活動を行うに従ってまとまりが強くなってきたように思います。

今後は、参加者一人一人がより一層農地の保全に努めていければと思っています。